

ウリヤについて

1.) もしウリヤの妻バテ・シェバが、ダビデと姦淫の罪を犯さなかったら（2サム11:2-5）、私たちはウリヤを軍の指導者の一人として見るだけだったでしょう(23:39)。もし彼がもっと長生きしたなら、彼の生涯についてもっと記録されていたかもしれません。しかし私たちが知っているのは、ダビデが彼をどのように欺こうとしたか（11:6-13）、そしてどのようにそれに失敗して彼を殺したか(11:14-25)という事です。

2.) ウリヤは2サム11:3に初めて登場し、1列王15:5にヘテ人ウリヤとして覚えられています。ヘテ人は、イスラエルによって土地から追い出された部族のうち、最も強い部族の一つでした(申命7:1)。しかし彼のユダヤ人の名前は「主は私の光」という意味ですし、11:11の彼の言葉は、彼がイスラエルの真の神を信じていた事を表わしています。

3.) 2サム11章のほとんどは、人々の悪い行ないについてです。しかし契約の箱とイスラエルの軍が戦場にいる時に(11:11)、自分だけ家に帰って妻と寝る事はできないと言ったウリヤの言葉は、彼の人となりをよく表わしています。また王は彼を招いて酔わせ、我を忘れさせようとはしましたが、失敗しました。彼は常に自分の快樂より義務を重んじました。

4.) 11章は、ダビデの行ないは主のみこころをそこなつた、という文で締めくくられています(11:27)。バテ・シェバより、ダビデ王が責められています。確かにウリヤを殺した事の責任は、他の者が手をくださったとはいえ、主にダビデにありました。

5.) 12:1-6のナタンのたとえ話は、ウリヤが王と比べたら、貧しい者だった事を言っています。しかしたとえ話の要点は、ダビデが罪を犯してウリヤを不当に扱った、という事です。たとえ話の中の金持ちのようにダビデは自己中心であわれみの無い者でした(12:6)。ここでもバテ・シェバの罪については何も書かれていません。彼女も明らかに責められるところがあったはずですが、たとえ話はダビデのためでした。

6.) 多くの聖書の学びの中で、バテ・シェバが目撃されますが、11章と12章ではほとんど彼女の名前は出て来ません。彼女は「女」(11:5)、「ウリヤの妻」(11:26,12:9,10,15)と言及されています。彼女の最初の子ども死の後に、再び名前が出て来ます(12:24)。ウリヤは忠実な兵士でしたが、彼女とダビデは不誠実な者でした。

7.) ウリヤについて最も重要な言及がマタイ1:6のイエス様の系図の中に出て来ます。私たちの知る限りでは、彼には子どもがいませんでした。しかし彼の妻がナタンという息子を(ダビデに)産み、そこからイエス様の法的な父であるヨセフに続きます。他の女たちと違って(タマル、ラハブ、ルツ)、バテ・シェバの名前は出ていません。ただ「ウリヤの妻」としてだけです。誉れは彼女のものでなくウリヤのものでした。

8.) ウリヤは殺され、彼の妻は姦淫を犯しました。しかし私たちが覚えるべき事は、ウリヤの人格、彼の言った事と行ない(11:11)でしょう。彼はダビデとは大きく違っていました！

ウリヤは...

2サムエル11:1-12:15と23:39を読んで下さい。

合っていると思うものには○、違っているものには×、どちらでもないものには△をつけましょう。

() 良い人だった？

- () 外国人(11:3)？
- () 信仰を持っていた(11:3,10-11)？
- () 良い兵士(11:11, 23:39)？
- () 不当に扱われた、かわいそうな人(12:1-6)？
- () ダビデより良かった (11:1, 11)？

() ダビデに殺された？

- () ヨアブに殺された(11:14-17)？
- () 戦争で、矢を射かけられて死んだ(11:24)？
- () アモン人によって殺された(11:1,12:9)？
- () バテ・シェバを守るために殺された(11:4-13)？
- () バテ・シェバに殺された(11:4,26-27)？

() 神様に用いられた？

- () 良い証しをたてることができた(11:11)？
- () すぐに忘れられることなく、覚えられた(12:15, マタイ1:6)？
- () 彼の妻よりも認められた(12:15, マタイ1:6)？
- () 子どもがいなかった(11:4-5, マタイ1:6)？

結論と適用

ウリヤについて私たちはどう考えるべきでしょう？

かわいそうな人ですか？

ウリヤは、忠実で自制心を持った人だったのに裏切られ、悪い人々に殺されました。彼は同情されるべきだと誰でも考えるでしょう。彼は自分の妻からも裏切られました。彼はイスラエルの真の神を信じ仕えていましたが(11:11)、イスラエルの王に殺されました。何という悲劇でしょう。

もし神様が存在せず、裁きや永遠もないのなら、それは悲しい話で終わったでしょう。しかし、そうではない事を私たちは知っています。ダビデとバテ・シェバも、罰を免れたわけではありません(12:7-8)。ウリヤは唯一異邦人の男性としてメシヤの系図に入れられる誉れを得ました。又、主のために不当に苦しめられた人々と同じく、彼は真に幸いな者です(マタイ5:3-12)。

皆に良く覚えられた人ですか？

マタイのメシヤの系図に入れられた事は、ウリヤが主に覚えられたことを示しています。では、神の民にも覚えられたでしょうか？バテ・シェバは短い間、彼の死を悼みましたが(11:26)、その後すぐにダビデの妻になりました(11:27)。彼は、聖書を見るかぎり、名前を覚えてくれる子どもも孫もありませんでした。また彼の名前は、23章のダビデの指導者たちのリストの最後にあるだけです。彼はヘブル書の信仰の勇者のリストにも入っていません。また今日でも、多くの人々はダビデとバテ・シェバの話は知っていますが、彼の名前は忘れていきます。

これもまた、残念な事です。ダビデの娘のタマルと似ています(2サム13:1-20)。彼女も彼も、不当に扱われ、ほとんど忘られる存在です。しかし繰り返しますが、この地上の生活が全てではありません。救い主を信じて罪から救われた者には、永遠の祝福があります。神様はそのような人々をお忘れになることはありません。どんなに目立たないような人でも。

良い兵士でしたか？

ウリヤについて最も大事な事は、彼がイスラエルの軍で良い兵士であった事かもしれません。それは彼の信仰に基づくものでした。彼の名前や言葉から(11:11)それがわかります。またそれによって、彼は11:11-13に見られるように、快楽よりも義務を優先しました。聖書の中で、2テモテ2:3-4で求められている、信仰を土台とした自制と献身を実行した人の良い例です。

「キリスト・イエスのりっぱな兵士として、私と苦しみをともにしてください。兵役についていながら、日常生活のことに掛かり合っている者はだれもありません。それは徴募した者を喜ばせるためです。」